

平成30年度 学力向上プラン

深谷市立豊里小学校

R
分析

全国学力・学習状況調査より

- ・国語 A・B、算数 A・B、理科とも全国平均より10ポイント以上低く、低位層の児童が多く、上位層の児童が非常に少ない。
- ・国語では「書くこと」「読むこと」に課題があり、特に記述問題の正答率が低い。
- ・算数では、「数と計算」「量と測定」の技能、知識・理解に課題がある。また、計算の正確さや速さが課題である。
- ・質問紙調査では、「自分に、良いところがありますか」が低く、自分や学習に対して、自信が持てずにいるようである。

埼玉県・学力・学習状況調査より

- ・4年生は、国語3.3ポイント・算数2.5ポイント県平均を下回っている。5・6年生は5ポイント以上県平均を下回っており、6年生の算数は特に大きい。
- ・伸びは国語・算数とも5年生は、ほとんど見られず、6年生はマイナスである。
- ・質問紙調査では、1時間以上「家庭学習」をしている割合が県平均より高い。辞書や参考資料も活用など学習の仕方に課題があるため、成果が出ていない。

NRTより

- ・国語・算数とも偏差値46.8で全国と比べやや低い。国語では「話すこと・聞くこと」算数では、「数と計算」に課題が見られる。

G
ゴール

【平成34年までの目標】

児童の確かな学力の向上

- ・読む・書く・計算が確実にできる。 ⇒ 思考力・判断力・表現力を付ける。
- ・授業が楽しい。(分かる・できる・生かすが体験できる授業)
- ・学習意欲の向上 ・学習習慣の確立(学習への姿勢、家庭学習)
- ・学校・家庭・地域が協力して、児童の学力を育てる体制の構築。

◎目標値 全学調・県学調でどの学年も全国平均(100)・県平均(100)と同等の力を付ける、前年に比べ、どの階層の児童も1以上伸びる。NRTでは国語算数とも偏差値50を目指す。

【来年度に向けての数値目標】 ※上位層：正答率75%以上

◎県学力・学習状況調査において、上位層を5年生30%以上、正答率50%未満を20%以下に、6年20%以上、50%未満を30%以下する。

	国 語	算 数
新 第 4 学 年	⇒ 30%	⇒ 30%
	⇒ 20%	⇒ 20%
新 第 5 学 年	上 23.3% ⇒ 30%	上 23.3% ⇒ 30%
	50未 33.3% ⇒ 20%	50未 33.3% ⇒ 20%
新 第 6 学 年	上 12.5% ⇒ 20%	上 8.3% ⇒ 20%
	50未 41.7% ⇒ 30%	50未 50.0% ⇒ 30%

【次年度に向けての重点計画】

- ・算数のノート指導案、板書、授業の流し方など学校のスタンダードの徹底。
- ・学力向上プロジェクト教員(研究主任)を中心として授業公開をし、授業展開の工夫をする。
- ・百マス計算やドリルなど繰り返し学習することで、基礎・基本の確実な定着。
- ・家庭学習カードなど、学校と家庭が協力して、学力向上の体制作りをする。
- ・ふるさと教育・キャリア教育など地域の教育力を学校教育に生かす。

8月

校内研修 学校のスタンダードの実施方法の確認。学校家庭生活アンケート(児童、保護者)の分析。家庭学習カード提案。全学調・県学調・NRT結果分析と求められる学力の確認

9月

校内研修 2学期の研修計画の提案と取組の確認。(家庭学習カード、百マス計算の取組(朝の活動や宿題など) 少人数指導やTTの工夫改善(3人体制の指導にも取り組む)

10月

校内研修 算数科の授業研究(学力向上プロジェクト教員T2として、学習規律の徹底、授業後の話し合い) 11/13の指導案の検討

11月

校内研修 11/13 学力向上プロジェクト教員と担任(5年・6年)による研究授業と研究協議。

12月

校内研修 第2回学校生活アンケートの実施。授業内容や家庭学習・家庭の協力状況の検討と改善策の作成。

1月

校内研修 第2回学校生活アンケートの分析と今後の取組の検討。

2月

朝の活動・宿題(学力調査に向けて) 練習問題に挑戦。以前の問題やコバトン問題集やB問題活用ワークプリント

3月

校内研修 研究のまとめと考察。来年度に向けての取組の確認。

学習規律の徹底 全職員の共通理解と家庭への啓発

ノート指導案の活用

計画的な朝自習の実施 百マス計算・短作文の添削指導等

家庭学習カード・プリントの実施と整備